

思わず立ち止まってしまう程の美しさ

「躑躅」の読み方をご存じですか？「躑^{チキ}」と「躅^{チヨフ}」はどちらも訓読みで「たちもとおる」と読み、「行きつ戻りつする」が語源です。2字をつなげると「躑躅^{ちよつ}する」という意味があり、道行く人が足を止める程美しい花を咲かせるため、「ツツジ」の当て字として使われるようになったといわれています。そう、「躑躅」は「ツツジ」と読むのです。

ツツジの語源として「ツツキサキギ＝続き咲き木」とか「ツツリシゲル＝綴り茂る」という説もあるように、ツツジの仲間は次々と美しい花をたくさん咲かせます。花が咲き終わると枝先に三枚の葉が出ることからその名が付いた「ミツバツツジ」は、雄しべの数が5本あります。日本にはツツジの仲間が90種類以上ありますが、ミツバツツジは近畿・東海・関東地方にしか分布していません。陶史の森では、ほかにも雄しべが10本あるトウゴクミツバツツジやコバノミツバツツジも見られます。雌しべの根元に細かい毛があるのがトウゴクミツバツツジ、毛がなく葉がやや小さめなのがコバノミツバツツジです。

よい気候になりました。陶史の森の遊歩道を散歩しながらツツジなどの草花をじっくり観察し、それぞれの特徴を見分けてみてはいかがでしょうか。



森	の
日	記

シイタケ教室 3月3日(日)

今年の原木は、職員が陶史の森の中に倒れているコナラを探し出してチェーンソーで切り刻み、谷底から担ぎ上げて調達しました。参加者の皆さんが和気あいあいと力を合わせて穴開けや駒菌打ちをしている姿を見て「実施してよかった。苦労して調達した甲斐があったなあ」と感じました。



サギソウの球根植栽 3月24日(日)

肥田盆栽会の皆さんがサギソウの球根2,500球を湿地に植えてくれました。今年はイノシシが陶史の森でも大暴れし、湿地や遊歩道をほじくり返して荒らしてしまっていました。サギソウが激減するかもしれないと危惧していた矢先のこと、大変感謝しております。ありがとうございました。



教室のご案内

5月

『陶史の森』写生会(要申込、雨天中止)

5月3日(金)・4日(土) 9:00~15:00
陶史の森の自然や動植物を絵画にします。
対象は、保育園・幼稚園児、小学生です。
※画用紙、画板は用意します。

バードウォッチング(自由参加、雨天中止)

5月26日(日) 9:00~11:30
春の野鳥を観察します。

6月

夏の天体教室(要申込・定員20人、雨天中止)

6月8日(土) 18:30~21:00
初夏の星座や土星を観察します。

ミツバチ教室(要申込・定員120人)

6月16日(日) 9:00~11:30
蜂蜜搾り体験をし、その蜂蜜を味わいます。

バードウォッチング(自由参加、雨天中止)

6月23日(日) 9:00~11:30
初夏の野鳥を観察します。